

平成30年度第1回産業・経済部会議事録

日 時：平成30年8月30日（木）13:30～16:40

場 所：北海道庁別館西棟4階会議室7

出席者：坂下部会長、奥田委員、青木委員、板垣委員、
市川委員、柿澤委員、小坂委員、小田委員、
佐藤委員、東山委員、満菌委員

事務局：鶴原室長、中谷主幹、伊藤主査

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 議 事
 - (1) 道史編さん体制について
 - (2) 編さんスケジュールについて
 - (3) 資料編のスタイルについて
 - (4) 資料調査の進め方について
 - (5) 道新記事見出しの採取について
 - (6) 各委員担当部分の構成・課題について
 - (7) 産業・経済編（資料編）の全体構成案について
 - (8) 今後の取組みについて
- 4 閉 会

1 開 会

2 自己紹介

部会長及び各委員の自己紹介。また未確定となっている分野等、今後委員補充の可能性があることについて奥田委員から補足説明。

3 議 事

(1) 道史編さん体制について

事務局から資料1をもとに説明。

(2) 編さんスケジュールについて

事務局から資料2をもとに説明。

(3) 資料編のスタイルについて

事務局から資料3～5をもとに他県史のスタイルについて説明。

(4) 資料調査の進め方について

事務局から資料6・7をもとに最近決定した調査に関する要綱について説明。

【板垣委員】旅費の出し方は「一般の道職員の例による」となっているが、道東などで飛行機は使えるのか。授業の合間の調査になるので、短時間で移動できるよう配慮して欲しい。

【事務局】ケースにもよるが、できるだけ配慮したい。

【柿澤委員】旅費を要しない範囲の委員旧知の機関への調査なども、事前の計画提出が必要か。

【事務局】原則必要。旅費は要しなくとも、報酬の支払いがある。

【坂下部会長】収集した資料は道が集約したいという方針なので、道を通さなくてはならない。

【東山委員】古い雑誌からの抽出でもよいのか。二次資料の著作権の処理は事務局がやってくれるのか。

【事務局】雑誌からの資料掲載もあり得る。著作権処理は事務局が行う。

(5) 道新記事見出しの採取について

事務局から資料8をもとに説明。

【青木委員】地方版は抽出しないのか。

【事務局】札幌版のみ。地方版は委員から年月を特定してもらってから、関係記事を道立図書館に取りに行く。

【市川委員】新聞は道新だけか。

【事務局】道新のみ。ほかに札幌市公文書館に北海タイムスの切り抜きがあるので、使いやすい形になっていれば使いたい。

(6) 各委員担当部分の構成・課題について

資料10「全体構成案」の順番で、各委員から資料により説明。

ア 地域経済（奥田委員）

【奥田委員】案として、大沼先生の「北海道産業史」（2002年刊）を踏襲して4つの時期区分を行った。ほかに総論的部分として「2 人口動態」「3 産業構造」「4 所得と域際収支」を柱建て。道内の地域構造は、2～4の中でおさえていく。

【坂下部会長】自分の研究分野に近づけて考えると、時期区分はいろいろあると思う。今後議論が必要。

【東山委員】時期はいつまでなのか。

【坂下部会長】2000年あたりということになっている。

【奥田委員】では大沼先生と同じ3つの時期区分ということになる。

イ 開発政策（小田委員）

【小田委員】まだ全体のイメージがわからない。各委員がそれぞれどういう資料を使うかわからないので調整が必要。開発政策は、新酪農村、トヨタ自動車、エネルギー問題、リゾート開発と重なる部分がある。共通の年代区分は調整が必要で、個人的見解では、北海道開発の位置づけの転換点は、ソ連が崩壊した1990年。

【奥田委員】小田委員には、苫東その他の大規模開発や公共投資の流れをおさえていただくことを期待している。

ウ 農業（坂下部会長）

【坂下部会長】農業のうち、おそらく古い年代を担当することになる。対ソ戦略、社会党王国など、せっかくなので新たな発見をして面白いものにしたい。

エ 農業（東山委員）

【東山委員】北海道農業をひとくくりにするのは難しい。自分は水田・畑作・酪農・園芸の各フィールドを持っているので、そこから掘り進めていく形でアプローチしたい。

オ 林業（柿澤委員）

【柿澤委員】『北海道山林史 戦後編』（1978刊）を踏まえつつ構成することになる。当時収集した資料も北海道林業協会に残っており活用できる。木材加工も含めて林業を扱う。製紙業は原料と切り離しても可能だが、摺り合わせが必要。

【奥田委員】製紙業は林業としての研究蓄積がある。水産加工業や酪農生産も同様なことが言えるが、これらはある程度一次産業の中で書いていくことでどうか。

【板垣委員】工業は手をつける場所がありすぎるので、ある程度原料の方で扱っていただけるとありがたい。資料はそれぞれで集めてみて、最終的に摺り合わせる方がエアポケットを避けられる。

【奥田委員】加工業は基本的に一次産業の方で扱い、工業では工業全体の展望の中で扱うことにする。2000年の根拠は。

【事務局】あまり新しい時代は歴史的評価が定まらない。また現職の知事の時代は避けるという慣習がある。

【坂下部会長】2000年で区切ってそれ以降を扱わないということではない。はみ出

してもいいけれども、別の章を立てていくのではなく、「その後どうなるか」という書き方になる。他県史はだいたい 1990 年くらいまでなので、2000 年は新しい。

カ 工業（板垣委員）

【板垣委員】加工組立型・基礎素材型・生活関連型という区分で扱ってみようと思うが、時代ごとに区切ることになるか、また地域ごとの視点という点は要相談か。資料では、銀行の資料から各企業のことが見えてくることもあるだろう。情報通信産業では、電信・電話は別として、ソフトウェア関係は 2000 年で区切るとすればほとんど入ってこない。そうした状況で情報通信として特に取り上げることになるのかどうか。

【奥田委員】道史の中に情報通信産業が全く入ってこなくなるのはおかしいのではないか。

【小田委員】シリコンバレーは 90 年代だった。

【佐藤委員】農業の方でバイオ産業はどういう扱いになるのか。

【東山委員】農業ではバイオはあまり視野に入っていない。どちらかという健康産業という扱いで、農業の範囲外という認識。

キ 商業（満菌委員）

【満菌委員】戦後は流通革命と言われる小売業の大きな変化があり、スーパー・コンビニ・ドラッグストアといった新しい業態が出現し、またその裏側に商店街の問題がある。小売業の変化に伴って卸売業界も再編された。そうした全国的な動向の中で、北海道はどのように展開してきたかを中心に描きたい。大型店の出店規制や商店街の振興といった政策と実態、企業の動きを見ていくことになる。貿易をどこまで入れるかは相談したい。資料としては、商工会議所に中心的に残っている。

【奥田委員】貿易は統計区分的には卸売業の範囲になっているので、是非商業で取り上げてもらいたい。また、運輸・輸送は北海道では大きな問題になるので、市川委員との関係も念頭に調整していただきたい。

ク 交通（市川委員）

【市川委員】「山口県史」の例では各産業は通しでということになるが、資料は時期区分ごとに作っている。

【佐藤委員】エア・ドウの資料など、経営形態が変わって資料がない場合もけっこうあるのではないか。その場合、新聞記事を資料として使うことはできるのか。

【事務局】他県史で新聞記事を使っていないところはない。どうしても取り上げるべきテーマに対し資料がみつからない場合に、新聞記事で補っているのだと思う。ただ新聞記事ばかりだと格好がつかないということは聞いている。

ケ 石炭（青木委員）

【青木委員】どの程度の資料が残っているかわからないが、近年は旧産炭地の資料館施設の整備が進んでいる。北大にも北炭の資料が入っているので取り上げていきたい。

【板垣委員】石炭以外の非鉄鉱山はどのように扱うのか。

【奥田委員】金属鉱山はあまり注目されてこなかったが、ある程度取り上げるべきで、青木委員にやっていただけないか。

【小田委員】石炭産業として釧路コールマインが残っているという書き方を是非していただきたい。閉山後の産炭地域振興は観光と重なるのではないか。

【奥田委員】閉山後の産炭地域振興の動きは触れた方がよい。むしろ政治・行政部会と重なる可能性がある。

コ エネルギー（小坂委員）

【小坂委員】石炭以外のエネルギーについて、戦後の電源の推移を産業基盤・生活基盤というインフラの問題として考えたい。構造改革は90年代～2000年を境に進展しており、その分析をこの中に入れなくて2000年で切ると、この産業史の意味は半減する。電力事業についていえば、2020年で自由化が完成するので、95年以降の動きについて中間的な総括をしておく必要がある。ただし全体の方針として決まっているのであればそれに従う。

【奥田委員】今までの議論から、産業・経済部会は2000年で切るのはかなり難しいのではないか。

【事務局】「2000年」は前提として決まっているが、前後にはみ出すのは、そうしなければ流れが位置づけられないのであれば問題ないとされている。

【坂下部会長】あまり厳密にする必要はないが、総論としてひとつ付け加えるまでするのはどうか。

【満園委員】切るならばもっと前で切ってもらった方がまとめやすい。

【奥田委員】編さん委員会の考え方は尊重しつつも、産業・経済部会は2000年にこだわらないというのではどうか。

【事務局】通史は全部会が同じ書き方になるので、産業・経済部会だけの話にはならない。

【奥田委員】企画編集部会に一度提起し、一緒の土台にする必要がある。

サ 金融・観光（佐藤委員）

【佐藤委員】観光では、運輸・開発計画と重なるところの調整が今後の課題。金融で相談したいのは、札幌証券取引所、北海道東北金融公庫、札幌だけにある証券会社などを扱うかどうか。

【奥田委員】北海道東北開発公庫はもともと北海道だけの政策銀行なので入れた方がよい。完全に網羅しなければならないということではなく、産業の発展に大きく寄与したものという視点で。ところで農業金融などの産業金融はどうするか。

【坂下部会長】産業融資という側面を考えれば、基本的にはそれぞれの産業で扱うべき。

【奥田委員】先ほどの加工業と同じく、各産業で扱うことにしましょう。

【板垣委員】飲食やレジャー等のサービス産業、地場産業はどう扱うか。

【坂下部会長】時間がないので宿題にします。

(7) 産業・経済編（資料編）の全体構成案について

奥田委員から、資料10をもとに説明。「山口県史」を参考に組み立てた場合、大項目10、中項目25程度とすると、中項目1つ当たり資料は平均34頁、中項目別の解説では平均6頁の目安となる。資料には統計を含んでも良いこととする。

(8) 今後の取組みについて

坂下部会長から、資料11をもとに説明。

【小田委員】いつかの時点で、集めた資料を集約して一覧を確認した方が、重複を避けられるのではないか。

【坂下部会長】誰かに模範を示してもらってもよい。

4 閉 会

(了)